

名古屋名駅ロータリークラブ

WEEKLY REPORT



～人類に奉仕するロータリー～

Rotary
Club of Nagoya Meieki

名駅ロータリークラブ「一隅を照らす」

会長方針

スローガン「超我の奉仕」

名古屋名駅ロータリークラブ
承認：1991年4月17日
例会日：水曜日 12:30～
例会場：名鉄ニューグランドホテル

会 長：藤井 圓隆
副 会 長：大輪 稔
幹 事：神保 誠
クラブ会報：川口 益弘

2016-17年度 R.I. 会長
ジョン F. ジャーム

●名古屋名駅ロータリークラブ 事務局：TEL.052-453-0808 FAX.052-453-0800 E-mail: meiekirc@f5.dion.ne.jp http://www.nagoya-meiekirc.com

第1205回例会

(カレー)

外部卓話例会

名古屋城の木造復元をきっかけに、循環経済社会の先導を！

2017年2月22日(水)

(平成29年)晴 No.29

- ☐ 司会 長澤正志 会場運営委員
☐ ロータリーソング 「かわいい魚屋さん」
☐ ゲスト紹介
 (社)中川運河チャンネルアート 川地正数様

- ☐ 出席報告 会員総数80名(免除者14名)
 義務者出席52名 免除者出席9名 総数61名
 出席率81.33% 2月8日分修正出席率97.10%



会長あいさつ

藤井圓隆会長

本日は中川運河チャンネルアートの川地正数様をお迎えし、卓話を頂きます。

中川運河は大正年間に名古屋駅と名古屋港を結ぶべく開発され、当時は画期的な運河でした。その後、人口増加などで水質が悪化しましたが、近年は堀川と共に再生プロジェクトが動き始めております。中川運河チャンネルアートの活動に、我がクラブの社会奉仕委員会も一昨年の河合委員長時代の時代からご協力させて頂き、現・早川敏江委員長もその後を継いで、2年にわたりコスモスを植える事業をお手伝いしております。

さて、水と言えば、私どもは人が亡くなりますと枕経に呼ばれますが、枕経をあげる前に末期の水という水をお与えします。櫛に一滴水を取り、それを亡くなった方の口に落とします。それだけ人間の体は最期まで水を要求している訳です。

末期の水の由来となったお話があります。お釈迦様が沙羅双樹の木の下でお亡くなりになる時、最後の水が欲しいと仰います。アーナンダが近くの川まで水を取りにいきますが、あいにく水が濁っており

ました。その時に鬼神が代わりに水を持ってきて、お釈迦様の口に含ませた、ということです。

その時、お釈迦様は頭を北に、右脇腹を下にして横たわっておられました。これは涅槃像の形です。江戸時代までは「寝ている間に死んでも仏様になりたい」と北枕で寝ていたのですが、今は考え方が変わり、「寝ている間に死んだら嫌だ」と北枕は嫌がられます。江戸時代はそれ程覚悟が出来ていたということです。覚悟の「覚」も「悟」も悟るという意味です。

私が実際に経験した例ですが、2～3時間前にお亡くなりになった方の口に末期の水をお渡しした時、涙が一筋すうーっと垂れてきたことがありました。私はビックリすると共に、非常に感激しました。

水と環境は非常に大切な問題です。今日は川地様のお話を期待しております。

□幹事報告 神保 誠 幹事

- (1)4月22日(土)に開催される、次年度のための地区研修・協議会のご案内をメールにて配信します。出席義務者の方は期日までにご返信下さい。なお、欠席の場合は代理出席のご依頼をお願いします。
- (2)本日例会後、第8回理事会が開催されます。関係各位は8F会議室へご参集下さい。
- (3)次々週3月8日(水)の例会は休会です。お間違えのないようにお願いします。

3月は水と衛生月間です

< 例会開催予定 >

- ◇第1206回3月1日(水) 通常例会 (立食)
 誕生日・結婚記念日祝福
 米山奨学生 張 嘉桐君
 「米山奨學期間終了のあいさつ」
 3月5日(日) 2017-18年度 地区チーム研修セミナー
 3月8日(水) 休会

- ◇第1207回3月15日(水) 通常例会 (和食)
 新入会員卓話 恒川和男君
 会員卓話 武藤雅之君「レゴランドの紹介」
 3月18日(土) 2017-18年度会長エレクト研修セミナー (PETS)

外部卓話

◇紹介

早川敏江社会奉仕委員長

川地正数様は大手の建設会社を退職後、現在個人で建築設計業務をされています。その傍ら、8年前より名古屋城及び堀川の再生をテーマに研究され、(社)中川運河チャンネルアートでも活動をされています。それでは川地様、宜しくお願いします。



「名古屋城と木の文化」

(社)中川運河チャンネルアート
川地正数様

今日はこういう場を与えて頂き、ありがとうございます。また、中川運河チャンネルアートに大変なご支援を頂き、メンバー一同非常に喜んでおります。

藤井会長から「水の話をしろ」ということですが、私は1月にミラノの有名なナヴィリオ運河へ行って参りました。水深は1m程ですが、底がきれいに見えます。川や運河は1にも2にも水がきれいではなくてはいけないと改めて感じました。最近では東京の隅田川も大阪の道頓堀川も、濁ってはおりますが二オイはしません。それに比べて名古屋の堀川、中川運河は日によっては二オイがします。これは民間の力では何ともならないので、行政の力で何とかして頂きたいと思います。

さて、今日は「名古屋城と木の文化」というお話ですが、名古屋城は家康が、応仁の乱以来150年の戦国の世を平和な時代に変えようということで作ったもので、その後の新たな歴史を作った城です。

名古屋城の築城に携わった職人さんは堀川辺りに住みつき、木曾から集まる素晴らしい木曾五木を使って匠の技を生み出しました。例えば、名古屋桐



本丸を東側上空から眺める



名古屋城内郭全体俯瞰図

筆筥、名古屋仏具、山車・からくり人形などが盛んになりました。そうした木の文化が、世界に冠たる愛知・名古屋のものづくりの原点になっています。

数年前、藻谷浩介さんが「里山資本主義」で循環経済社会について書かれ、話題になりました。循環経済社会の中心資源は木材です。このところヨーロッパをはじめ世界では、いたるところで純木造による高層建築が作られています。世界中で鉄筋コンクリートから木造に移行しようという動きがある中で、これからの循環経済社会は、優れた木の文化を生んだ名古屋が先導していかなければならないと思います。

そのきっかけとなるのが、名古屋城天守の木造復元です。単に歴史的に価値があるものだから復元するというのではなく、未来に向かって必要なんだということを、私は申し上げたいのです。名古屋城には城郭全体の詳細な記録があり、唯一名古屋城だけが忠実な復元が出来るのです。私は資料を基に、2年間コツコツと3次元CADで図を描きました。

天守や本丸御殿だけではなく、私は、隅櫓や多聞櫓などを含めた本丸全体を、2026年のアジア大会ないしは2027年のリニア中央新幹線開通に向けて復元すべきだと思います。

また最近、名古屋市が伊勢のおかげ横丁にならい金シャチ横丁を作ろうとされていますが、これも土産物横丁的なものではなく、150m角程の場所にかつての街並みを復元するくらいのことを考えなければいけないと思います。更に、現在50%を道路が占める三之丸ですが、北側に木造の官庁街を作り、南側を森にしてセントラルパークとつなげるような提案もしています。

来たるべき循環経済社会に向けて、名古屋城と木の文化を生んだ名古屋から、世界に発信して欲しいと思います。



天守南東側



木材を使い、三之丸を再生



ニコボックス

- 中川運河チャンネルアートの川地正数様、ようこそお越し下さいました。ご講演楽しみにしております。(藤井 隆君)
- 川地正数様の卓話「名古屋城と木の文化」を楽しみにしています。(小室健次郎君)
- 川地様、卓話宜しくお願い致します。(大輪 稔君)
- 川地様、卓話楽しみにしています。(神保 誠君)
- 川地様、本日の卓話を楽しみにしております。(早川敏江さん)

その他、コーヒー代として1名の方よりご協力頂きました。